	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所 名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	<h1>セコイア通信</h1>	編集人 佐藤 豊
		発行人 竹谷 裕之
		印刷所 株式会社 クイックス

法人化を前にして

名古屋大学農学部同窓会名誉会長 山本 進一
(農学部長・大学院生命農学研究科長)



◆卒業・修了を迎えられた皆様へ

名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科を卒業、修了された皆様方に、門出をお祝い申し上げますとともに、農学部同窓会への加入を心から歓迎いたします。同窓会に加入されることによって、国内外の様々な社会、産業、機関などで活躍されておられる先輩諸氏との交流や連携あるいは情報交換、そして母校の教職員・学生との相互支援と親睦をより一層深めることができます。社会へ出て何か困った時、同窓生や同窓会は皆様方にとって心から信頼できる相談相手でもあります。「東山」の思い出とともに、この同窓会の輪をますます広げていただきたいと願っております。

従来、名古屋大学には大学全体としての同窓会がありませんでしたが、一昨年、各学部同窓会を結集し10万人規模の全学同窓会が、豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長を会長に設立され、活発な活動が開始されています。名称は名古屋大学全学同窓会でNUALと略称しております。全学同窓会の設立を機に、名古屋大学とその同窓生そして広く社会との連携・交流が力強く推進されることと信じております。御入会されていない方々は是非、御入会いただきたいと思います(<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>)。

◆同窓会会員の皆様へ

名古屋大学農学部同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ 各界で御活躍の事と拝察し、心からお慶び申し上げます。この4月1日から名古屋大学は国立大学法人名古屋大学として再出発し、これまでの組織体制が大きく変わります。国家公務員の身分はなくなり、予算は運営費交付金として来ることとなります。これまで経験したことのない出来事だけに不安もありますが、これまで通りレベルの高い教育・研究を行い、優秀な人材を養成したいと存じます。以前にも増して同窓会の有形無形の御支援を強く御願いたします。

平成15年(度)も、当農学部・生命農学研究科は活発な活動を展開いたしました。主な受賞関係では、鈴木太七名誉教授が瑞宝中授章を、坂神洋次教授が日本農芸化学会賞を受賞されています。農学の優秀な若手研究者のために一昨年に設けられた農学進歩賞を魚住信之助教授と吉岡博文助手が受賞されました。また、本年度には農学部・生命農学研究科のシンボルマーク(口丁)をコンペを行い制定いたしました。同窓会の愛称

であるセコイアの名前の由来となった記念樹のメタセコイアをデザインしたもので、後藤麻木助手の作成です。このマークについては是非、農学部・生命農学研究科のホームページを御覧下さい(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>)。

この3月末をもって、生物材料科学講座(旧林産系)の木村志郎教授、安田征市教授、応用遺伝・生理学講座(旧畜産系)の若杉 昇教授、分子情報制御講座の中野紀和男教授が定年退官を迎えられます。この4名の先生方には思い出深い会員の皆様も多いことと存じます。今後とも、当農学部・生命農学研究科の発展にお力添えいただければと願っております。もうお一人、分子情報制御講座の鳥山尚志教授が定年退官を迎えられるはずでしたが、病氣療養の甲斐なくこの1月にご逝去されました。あと2カ月で定年を迎えられるこの時期の悲報は痛恨の極みで、先生のご冥福を祈りたいと思います。

昨年、名古屋大学構内は建設ラッシュで次々と新しい建物が立っています。また、昨年12月には念願の地下鉄「名古屋大学」駅が完成し、地下鉄での名古屋大学へのアクセスが便利になりました。が、農学部へは「東山公園」駅からのアクセスが近いようです(坂があります)。

さて、今年9月(27-30日)には、名古屋大学でアジア農科系大学連合(AAACU)第15回大会が開催されます。2年おきに開催されているもので「アジア農科系大学連合における遠隔教育のためのE-learning Systemの確立」が今回のテーマです。同窓生の中には前回、名古屋で開催されたことをご記憶の方々もおられるかも知れません。現在、組織委員会を立ち上げ、顧問の先生(瓜谷、斎藤、清水、吉田元学部長ら)の協力も得ながら募金活動を行っておりますので、同窓生の皆様方の暖かいご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、農学部同窓会の皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、本年度の同窓会総会には多数の会員の皆様方の参加を御願いたします。農学部創立50周年に記念植樹したヒトツバタゴ(なんじゃもんじゃの木)も見事に美しい花を咲かせております。

名古屋大学農学部同窓会会長あいさつ

竹谷 裕之 (1968年3月卒業)



同窓会の会員の皆様、ご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。日頃は、同窓会に様々な形でご協力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、ご存知のように、名古屋大学はこの4月から国立大学法人名古屋大学になります。法人化は大学の自律性・自立性を強く求めることになります。文科省から交付される運営交付金は平成17年度から毎年1%減少することで、財務省と文科省が折り合ったことですので、研究教育活動を発展させる上で大変厳しい状況になりそうです。

このような状況下で、同窓会の持つ意味を考えてみますと、アメリカや慶応大のように同窓生が母校に高額な寄付金をすることは夢物語として、現実的には、大学と同窓生の両者が支え合う関係を発展させることが強く期待されます。

野依良一先生がノーベル賞を取ったことで、名古屋大学が評判になり、同窓生の皆さんも気持ちが高揚したのではないのでしょうか。生命農学研究科の研究グループが農学分野で唯一 COE に選ばれたことも、皆さんの周りで話題になったものと思います。同窓生の加藤鐵夫氏が林野庁長官に就任され、当農学部で講演をされたときは、教官はもとより多くの学生が参加し、卒業生の活躍に拍手を送り、大変励まされました。

同窓生は農学部・生命農学研究科で学業を修められた縁で繋がっています。この事実は消せない歴史となつ

て一人一人の人生に刻まれています。同窓生が社会で活躍し、母校の名前が出ますと、大学の社会的評価が上がり、大学の研究教育が優れた成果を上げますと、同窓生も母校の評価を背に活動しやすくなります。そういう意味で、同窓生と母校は一種のコミュニティを作っているのだと私は考えています。

最近、学生の母校への帰属意識が弱まっているとの声を聞きます。この点、我が学部・研究科が魅力ある研究・教育、学生生活、人間関係の場として機能しているのか、もう一度見つめ直す必要を示しているとも感じます。これらに満足度が高ければ、母校との絆を大切に思い、帰属意識を強めることになるからです。先生方の多忙化は限界まで来ていますので、見直すこともことは容易でないのですが、母校が教育機関の一つとして、その内容が充実していくことは、学生の満足度を高めるとともに、同窓会というコミュニティを強くし活性化することに連なる重要な課題ではないでしょうか。

同窓会では会員名簿の充実を始め、役員協力して活動を進めています。皆様の温かいご協力をお願いします。また6月5日の記念講演会・総会はホーム・カミング・デイとして、皆様が旧交、友好を深める機会にしたいと考えています。ぜひお越しください。

全学同窓会からのお知らせ

名古屋大学全学同窓会は、学内外の方の賛同と支援を受けて平成14年10月に創設され、15年11月には第2回総会を開くことが出来ました。

名古屋大学は、平成16年4月からは国立大学法人名古屋大学となります。全学同窓会は、大学と社会を結ぶための必須の組織として、名古屋大学と連携して活動していきます。

そのための財政基盤作りとして、初年度、15年度は、学部(学科)同窓会や企業内の名大卒業生の会等を通じて同窓生の方々に設立基金への寄付をお願いし、16年1月までに約4,600万円のご寄付を賜りました。農学部同窓会のみならずにも多くのご援助を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成16年度からは支援会員制度を正式に発足させ、恒常的なご支援をえて安定的な活動をしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくご協力申し上げます。

なお、創設以後の主な活動は以下のとおりです。(詳細は全学同窓会HPでご覧下さい。http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/)

- ・全学同窓会名簿の整備/同窓会電子名簿として約10万人分を整備、インターネットによる登録変更システムの稼働開始
- ・拠点形成/関東支部の設立、遠州会同窓会の支部認定、関西支部創設準備
- ・学生支援/名大祭、卒業式、入学式、クラブ活動支援、就職支援活動の検討
- ・大学支援/研究科等開催行事の後援、講演会(産学官連携推進本部との共催)、東京フォーラムへの協力
- ・その他/名大男性合唱団演奏会後援

平成16年度名古屋大学農学部同窓会 総会、講演会、懇親会のご案内

農学部同窓会総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催いたします。今年の講演会では、ゲノム分野で大活躍されております佐々木卓治氏をお迎えすることになりました。また、懇親会では、昨年同様カジュアルなスタイルで行う予定にしております。懐かしい同級生や教官たち、また世代を超えた方々との交友を深められたらいかがでしょうか。皆さんお誘いのうえ、ふるってご参加ください。

- 期 日：平成16年6月5日(土) *名大祭期間中
- 総 会
 - 時間：午後1時～2時
 - 場所：名古屋大学農学部 第3講義室
- 講演会
 - 独立行政法人 農業生物資源研究所ゲノム研究グループ長 佐々木卓治氏
 - 「イネゲノム解析研究で分かること」
 - 時間：午後2時～3時
 - 場所：名古屋大学農学部 第3講義室
- 懇親会
 - 時間：午後3時～5時
 - 場所：名古屋大学シンポジオン内「ユニバーサルクラブ」
 - 会費：1,000円

同封の葉書にて出欠席のご返事をお送りください。なお、総会に欠席の場合には必ず委任状を添えてお送りいただきますようお願い申し上げます。講演会、懇親会のみでの参加も歓迎いたします。

木質バイオマス研究の発展を期待して

森林化学研究分野 教授 安田 征 市



名古屋大学農学部に着任してから27年を経過しました。北大農学部での時間的に余裕のあった生活に比べて、当初は教官が廊下を走って仕事しているようにみえ、名古屋は東京と京都に挟まれているために多忙な都市であるのであろうと思っていました。初めて体験した体温より高い真夏の気温と高湿度に加えて、秋になっても高温の日が多くボケるのではないかとかなり心配したものです。さらに、まだ焦点の定まらない頭をかかえている頃に前触れもなく農学部の事務より大学院入試のドイツ語の出題と採点に関する親展の書類を受取りました。農学部長が本人の承諾なしに共通科目の入試委員を決めることに驚きと不安を感じたものです。ドイツ語の出題委員に選ばれた理由をあれこれ考えましたが、思い当たった只一つの理由は研究業績目録にドイツ語で書かれた論文があることでした。ただし、その論文はスウェーデンのルンド工科大学に留学した折の成果をドイツ語に堪能な相棒（オーストリア出身）が作文したものでした。私のドイツ語能力は入試で出題し採点するレベルには達していません。赴任したばかりで、委員を辞退するのは如何なものかと思いつつ、また任務を果たす方法として丸善（名大生協は避けて）に行き、自然科学に関するドイツ語で書

かれた日本語訳付きの書籍を求め、その中から出題しようかと思った頃に、もう一通の書類を事務からもら

いました。先にお願ひした主題委員は安田でなく畜産学科の保田先生の間違いでしたので取消しますとのことでした。この一件でボケの心配はなくなりました。また、名古屋の暑さにも3年後に慣れました。

農学部・生命農学研究科での研究は主に各種リグニンの構造、生成機構や反応性に関する基礎的な内容でしたが、木材工業との関わりで悪臭成分、セメントの硬化阻害成分や合板製造の際に起きる樹脂障害などについても扱いました。ここ数年の主要テーマは木質系バイオマスの化学的な有効利用で、これは酸リグニンに関する基礎研究の延長線上にあります。最近、バイオマスエネルギーに大きな関心が寄せられていますが、その一つに液体燃料（ガソリン）としてのエタノール生産があります。この方法は木質系バイオマスを主とする農産廃棄物中の多糖成分（セルロースおよびヘミセルロース）を加水分解して単糖にかえ、さらに醗酵によりエタノールを製造するものです。加水分解法として酸法と酵素法がありますが、木質系バイオマスは

多糖成分が芳香族高分子であるリグニンで包埋された構造を取っているために、前処理を施しても酵素法により高収率で単糖を得ることが難しく、2001年からスタートした日本における加水分解でも酸法が採用されています。単糖に加えて原料の約3割に相当する酸加水分解リグニン(SAL)が副産物として得られます。現在SALは燃焼し熱エネルギーとして利用する計画

がなされていますが、これを如何に有効利用するかが経済的な加水分解工業の成否の鍵を握っていると考えられています。最近ではSALの機能性物質への変換について取り組みました。今後さらにこの研究が進展することを期待しています。

最後になりましたが、農学部同窓会の皆様方の益々のご発展とご多幸を祈念いたしております。

同窓会の思い出

生物材料機械学研究分野 教授 木村 志郎



都築一雄会長時代に副会長を務めさせていただきましたが、メモも処分してしまい何をしたのかあまり記憶にありません。その後、梅本弥一郎会長(昭和52、53年度)、森治男会長(昭和54、55年度)、和田弘次郎会長(昭和56、57年度)と続き和田会長の時に副会長を務めさせていただきました。この時、和田会長と私を含めて5人で農学部創設の地・安城を尋ねました。学生時代の記憶を頼りに思い出深い場所を訪問し、その様子を同窓会報に載せました。最も印象が深かったことの一つは、多くの学生が下宿した岡洋裁学校(現安城文化服装専門学校)で当時下宿生の世話をされていた若夫婦が健在で「場所はここを提供するし、料理は生徒に作らせればいから同窓会は是非ここで」と熱心に勧められたこと。もう一つは中華料理屋の北京号で耳は少し遠くなられたが、おばさんが元気で「名古屋農学部関係者なら2階が空いているので、何時でも泊まってもらっていい」と親切に言ってくださったこと。農学部学生が地域の人たちに愛されたよき時代を懐かしく思い出しました。二つのことを実現しないまま21年の年月が過ぎました。東山に移ってから、このような町の人々との心の触れ合いがなくなった様な気がして寂しく感じているこの頃です。和田会長の後を引き継いで昭和58、59年度の会長を務めさせていただきました。梅本会長から総会、懇親会には5倍強の200人を集めたいという申し送りがあり、まずは100人を目標としました。その為に和田会長の折に決定された各学科、各学年1名の評議員を選出しました。評議員の方には総会、懇親会などへの勧誘、その他種々の事業の

相談にご協力をお願いいたしました。人集めのための企画として、総会の折に特別講演会を開催することにし、昭和59年の総会での第1回特別講演は、家が近くということで親しくしていただいていた水産科学研究所の北野康教授にお願いし、「地球上における水の起源と進化」を講演していただきました。それまで学外でやっていた懇親会を大学生窓にし、懇親会費の値下げを図りました。この時は3桁には到りませんでした。昭和58年度の卒業・修了の祝賀会では同窓会で4斗樽を用意し樽の升で大判振る舞いをしました。その後、樽はだんだん小さくなってきています。安城の農学部正門にあった名古屋大学農学部と刻まれた石板が東山移転の折に割れて、そのまま保管されていると聞き、割れた石板を修復するので農学部玄関の壁に貼らして欲しいと農学部長に掛け合い許可を得て日の目をみました。名古屋大学大学院生命農学研究科への名称変更と共に何時か現在の新しいものに代わりました。私が会長を辞めるまでに梅本会長、森会長、和田会長と会長職後、矢継ぎ早に逝去されました。次は自分の番という嫌な雰囲気私を私のところで断ち切ることが出来ました。私の責任感不足の性か、中井昭彦関西支部長から「木村さんは一見して丈夫で長持ち」と評価していただいた体力の性が定かではありませんが、どちらにせよ次からの会長職の引き継ぎのために大きな役割を果たしたとホッとしたというのが本心です。

れんげ畑で学んだこと

動物細胞機能研究分野 教授 中野 紀和男



「安城時代の事を話すとA君に軽蔑される。」10年前に退官された日先生のお言葉である。しかし卒業以来40年を越えてお世話になってきた本学を語る時、私にとっても安城時代は決して除くわけにはいかない。春

は裏のれんげ畑で昼寝、夏の午後は毎日先生方と共にテニス、秋はソフトボールやバレーボールの研究室対

抗戦、毎夕講義室の机をずらして他研究室の先輩達との卓球の個人戦、運動会や文化祭、映画鑑賞、1泊研究室旅行……まことによい時代であった。(遊んでばかりいた?)

石炭を乾溜して作った研究用のガスは粗悪なため、パーナーの先に金網を被せて対応、常に水圧が変わる水道。そんな学生実験のある時、3つ後ろの実験台へ油を売りに行っていた。ふと振り返ると、自分の実験台に「なにか太くて黒くて長いもの」が載っている。「？」の一瞬後「あっ!」。普段6ミリのほどの冷却水用のゴム管が6-7mmにもなっていたのだ。飛んで帰って蛇口を閉め……。そうです。あと1分遅かったらゴム管が外れ、実験台上をのたうち回って、噴水を播き散らしていたはず。また、パーナー式乾熱器で芋を焼いていて、先生に見付かりそうになり、扉を開けられまいと焦っていたC君。

研究室は教授以下スタッフが5名に対し、学生は院1と我ら3名の卒業生のみ。先生方と親しくお付き合いさせて頂いたのは当然だろう。「大学の先生というのはなんと格調高い精神をお持ちなのだろう。」当時正直そう思った。研究活動はまことに楽しく、自分が「研究好きな人間」であることを気付かせて頂いた。それが、卒業後入った会社を1年も経たずに辞め、当時は2月にもあった院入試を受け……と今日に繋がって

る。つまり私の一生を決めた、まことに充実した1年だった。そんな学生生活を送らせて頂いた先生方に対する深い尊敬と感謝の気持ちは今も変わらない。さらに、そんな自然に囲まれた素晴らしい雰囲気だったため、先生方を始め、研究室の同級生や先輩・後輩達との付き合いはまことに深く、そして長く、今日に至っている。振り返ってみればそういう、人生にとって最も重要なことが得られたことを、今静かに思い、感謝の念で一杯である。

その後の長い教員生活の間には、専攻会議をはじめ、さまざまな委員会で、厳しい局面に出会ったことも少なくない。そのうちだんだん気付くようになったことがある。それはどんなに意見が対立しても、相手と同窓生である場合は、心のどこかで絶対に崩れない信頼感を持っていることだ。その場合はどんなに激しいやり取りをしても、結局うまくまとまって決着するのが常だった。「国と国との外交で最も大切なことは、結局は相手国に対する信頼だ」という。それをはからずも同窓生との会議を通じて学んだことになる。つい先日、長くやり取りの少なかった同級生が「これで定年になるので時間ができる。また以前のように親しくおつき合いをしたい」と言ってきた。ことほど左様に同窓とはありがたいことである。

発生異常突然変異追究40年

動物生殖制御学研究分野 教授 若杉 昇



昭和34年名古屋大学農学部、畜産学科に入学し、4年生で家畜育種学研究室に所属、大学院に進学し、その後教官に採用され、平成2年現職に着き今日まで勤めさせて頂きました。

大学院に進学しDDKマウスの不妊現象に取り組んだのが私の発生学研究の始まりでした。DDK雌×他系統雄の交配は殆んど不妊である特殊な現象を追究し、初期発生の過程で胚が胚盤胞形成不全を示して死亡するために不妊になること、更にこの胚死亡は卵子の細胞質要因と精子要因との不適合に起因すること、並びにこれら二つの要因は常染色体性の同一座位の遺伝子によって支配されていることを解明し、この研究は私の博士論文となりました。この研究が英国の科学雑誌に発表され、DDKマウスを譲渡して欲しいとの依頼があり、ロンドン大学、パスツール研究所及び米国ウィスター研究所に送りました。パスツールグループの研究が最も進み、私が予想した遺伝子座は第11染色体に位置すること及び卵子細胞質要因はRNAであることが解明されました。しかし、不適合に関する分子生物学的解明には至ってなくその解析は現在進行中です。

私の研究は別の方向に進みまして、卵子細胞質要因

の生産に関し新たな仮説を提唱すると共に、DDKとMOM(日本産野生マウスから育成した系統)との間

に不適合は存在しないことを発見し、別の課題が存在することが示唆されました。このようにDDK現象は難しい問題を提起しておりますが、私は問題提起をした段階で退官することになってしまいました。その他、マウスについては無尾及び短尾形質、小型精巢形質などに関する発生学的・遺伝学的解析を行うと共に、凍結胚によるマウス系統の保存法の検討を行い、この研究成果は遺伝資源の保存に活用されています。また、ニホンウズラに関しては実験動物化の研究を行うと共に肝臓形成異常、耳口異常、網膜形成異常などについて発生学的・遺伝学的解析を行う過程で、ウズラ胚を卵殻外に取り出し操作して、更に孵化の段階まで発生させる方法を確立しました。この方法は鳥類のバイオテクノロジーを支える基本技術として広く活用されています。以上、私の発生学研究の概略を述べました。その他、マウスの神経疾患及び腎臓異常疾患モデル系統を育成し医学分野にも貢献致しました。

1960年代後半から1970年代前半に架けての大学紛争により大学が変化したかにもえましたが、実際の大学改革は四年一貫教育への移行であったと思われます。その頃に私は教授に昇進し、農学部を代表し四年一貫教育計画委員会委員及び全学共通教育レビュー委員会専門委員を務めました。本年4月からは独立行政法人

に移行し、また大きな改革が実施されようとしています。変革の嵐の中を通り抜け農学部及び生命農学研究科が一層輝く世界有数の研究・教育拠点として発展するよう多大な援助を同窓会の皆様方をお願い致しまして退官のことばとさせていただきます。



鳥山尚志先生におかれましては、定年退職を間近に控え最終講義の準備をされておられた2004年1月23日、食道ガンのため逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は三重大学農学部を1963年3月にご卒業後、理研ビタミン油株式会社に2年勤務され、ついで三重大学農学部助手に採用、1年後に同助手を退職され、名古屋大学農学研究科修士課程に入学、1968年3月同課程を修了、博士課程に進学され、1970年9月同課程を退学、同年10月東京大学応用微生物研究所に助手として採用され、1985年10月には同研究所助教授に昇任されました。この間、1972年には農学博士の学位を授与されています。1992年12月には名古屋大学農学部附属生化学制御研究施設教授に昇任され、1993年4月名古屋大学生物分子応答研究センターに配置換えされました。

先生は、名古屋大学の教授として11年間在籍され、植物生化学・植物生理学の分野で顕著な業績を挙げられました。特に植物カルモデュリンの発見は、カルシウムイオンの細胞内シグナル物質としての機能研究の先駆けとなり、優れた生理生化学的研究が世界的に展開されました。先生のカルシウムシグナル系の研究は、カルシウム輸送体やプロテインキナーゼの生理・生化学的および細胞生物学的研究、サイトソルカルシウムイオン濃度変化の非侵襲的リアルタイム測定法の確立と、これを利用した物理的・化学的・生物学的な刺激に対する応答の解析、カルシウムシグナル系と活性酸素生成系、リン脂質代謝系との関連研究など、多岐にわたっています。先生はまた、後進の指導と育成に尽力され、多くの優れた人材を輩出させました。さらに日本植物生理学会評議員、Plant and Cell Physiology 編集委員、日本植物学会中部支部長および評議員、日本農芸化学会中部支部評議員を務められ、学界の発展に貢献されました。また生物情報制御専攻長を務められるなど、同センターおよび大学院生命農学研究科の管理運営に貢献されました。先生の多大な功績に対し、同窓会を代表し、敬意と感謝を表し申し上げます。

卒業生の言葉

大学での4年間

応用生物科学科 森林化学研究分野 和田 沙織

大学での4年間。あっという間に過ぎた気がします。今振り返ると、それまでの人生とはまた違い、充実し色々勉強になった4年間でした。中学、高校での生活もそれはそれで充実していましたが、ほぼ勉強と部活の日々でやりたい事などほとんどできなかった気がします。しかし大学での日々は、自分の興味があることを学べ、その一方でバイトをしたり、ライブに行ったり旅行に行ったりと、学校や部活に縛られることなく好きなことがおもしろいことができました。そんな生活の中で、すでに社会に出ている人との出会いがあったり、自分とは違った環境の中で生まれ育った人との出会いがあったりして、様々な価値観に触れることができ勉強になったし人としては成長できたと思います。

大学4年間は、テストに実験、レポートと忙しいときもありましたが、それでもやはり人生の中で一番時間に余裕があり何でもできる時期だと思います。そんな時期を有効に使えたかわかりませんが、いろんなことに挑戦し、振り返ってみれば満足いく4年間だった気がします。卒業し社会に出れば、さらにいろんな

ことがあると思います。大学生活での経験をいかし、出会ったかけがえのない人たちを大切にしながら、くじけず頑張っていこうと思います。

*

人の一生はやり直しがきく

資源生物環境学科 資源昆虫学研究分野 竹内 久男

私にとって、名古屋大学は、2度目の大学です。50歳をこえてもう一度大学に通い、仕事もやめることは考えても見なかったことです。私の姉も、文学部（地理）を卒業しており、彼女の時代に行った名古屋城のお堀のところにある学生寮が、思い出に残っていました。そのような関係から、心の中にあつた憧れでした。

そして、入学をゆるされ、桜の花の頃、豊田講堂での入学式を迎えました。式の中で、心に残っているのは、「凛として生きなさい」という総長の言葉でした。

さて、それからの生活は、凛としてできたでしょうか？ 学問のためとはいえ、生活の方も犠牲にするわけにはいかず、時間との競争でした。

それでも、所々に、楽しい思い出があります。久々に参加したコンパ、農場での友人とのふれあいなど、

逆に、物理がさっぱり分からず、テスト前に答えを覚えるしかなかったこと、英文の論文を読めずに苦労をしたことも、フランス語を頭から覚えてかかったことなど。でもこれも楽しい思い出として残っています。

大学と言うところは、自分から勉強しなければ、何もえられないと言うことは分かっていたつもりですが、自分自信の弱さから、そのことに背を向けて、流れてしまったこともあります。

これからそれぞれの進路に分かれ、自分を追求していくこととなると思います。私自身は、すべき事は決まっているつもりですが、何処までできるかは、あと残りの人生を、見つめながら過ごしていきたいと思っています。

とにかく、本当に心に残っていますが、様々な友人達に声をかけてもらい、先生方にも迷惑をかけました。4年生の最後になりました。4年間は「あっ」という間でしたが、それでも、4年間曲がりなりにも無事に、自分のわがままを通させていただき、やってこれたのは、先生方、友人、家族に感謝以外の何ものでもありません。

私の信条は、「反省するが後悔はしない。」でしたが、もうひとつ、これは誰かの言葉と思いますが、「人の一生は、やり直しがきく」も入れようと思います。今本当にそう思っています。

*

卒業に向けて

生物機構・機能科学専攻 植物遺伝育種学研究分野 大滝弘道

2002年、恩師北野英己教授の突然の異動により名古屋

屋大学大学院附属農場への出向で私の大学院生活がスタートしました。私の所属する植物遺伝育種学研究室とは分野の異なる研究室での生活は、はじめは不安でいっぱいでした。しかし、耕地利用学および草地学研究室の明るい雰囲気がある私の気持ちをかき消してくれました。農場の研究室は先生と生徒の仲が非常に良く、とにかく元気な研究室でした。そこで多くの人と出会い、別れを経験しました。人生のうちで出会いは限られているといえます。恩師の異動がなければ彼らとの出会いもなかったわけで、苦労した時期もありましたが自分の人生にとって非常に大切な時間を過ごすことができました。それも全て恩師を始め、農場で出会うことのできた皆さんのおかげであったと感じております。また、農場での作業を始め、植物遺伝育種学研究室および有用農業形質保存分野の皆さんにも多くの助言およびご協力をいただきました。

2004年現在、私は多くの方に支えられて無事卒業することができました。特に恩師に対しては伝えきれない感謝の気持ちでいっぱいです。叱咤激励してくださった恩師がいたおかげで今の私があると確信しております。この場をお借りして支えてくださった恩師と、研究室を越えて支えてくださった多くの先生方、先輩、後輩に対し、深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これから私は社会人として社会の荒波に乗り込んでいくこととなります。名古屋大学および名古屋大学大学院での経験を生かし、遭難しないよう必死に頑張っていきます。名古屋大学および名古屋大学大学院のこれからのますますの発展を祈り、卒業に向けた言葉に代えさせていただきます。

記念樹は今(その5)

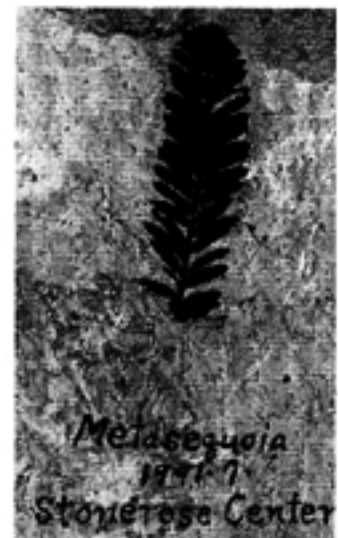
記念樹メタセコイア再び

第1回卒業生(昭和30年)が記念樹としてメタセコイアを選び、安城市の元学舎に植えてから、50年近くになり(前報)、東山学舎に移植して、今、亭々と躰えている。成長の早い樹木だから隣の管理棟よりも高くなり卒業生の社会的地位もまた同様にぐんぐんと伸びていることを象徴しているようにみえる。メタセコイアは元大阪市大の植物学教授三木茂先生が1941年に瑞浪付近の陶土の中に見いだした。私が瑞浪博物館で実物を見ると、それは親指大の粘土の塊の中にちぎれちぎれにメタセコイアの小さな枝葉が含まれている極めて不完全な標本であった。このような標本から種類を同定するのは難しいと思われ、それに学名を与えられた三木先生に改めて敬意を表したい。

私はカナダと米国の国境を越えたところに広がるオレゴン河のデルタ地区で、江南短大の学生と共に二度の夏を過ごしたことがあった。その地方の人々はハイと

名古屋大学名誉教授 保田幹男

手を上げるだけで、いとも簡単に国境を越えて行けるのに便乗した。カナダから米国側へ越えて一時間ぐらい走ると、化石を産する山塊があり有料で解放されていた。そこでは4本松、公孫樹と共にきれいなメタセコイアの化石が採集できる。案内して下さったカナダのセルカーク・カレッジの先生に立派な化石を頂いて、今も研究室の机の上に置いて楽しんで眺めている。古い時代にこれらの樹木が北半球の北辺に暗いまでに茂っていたのであろう。しかし、化石として残されているのは、これら3種類の植物だけであった。



平成15年度名古屋大学農学部学術交流基金採択課題のご案内

同窓会員の皆様には名古屋大学農学部創立50周年事業後援会への募金にご協力頂きありがとうございます。この募金の一部により「名古屋大学農学部学術交流基金」が設立されました。平成15年度分の研究助成が採択されましたので、ご寄付を頂いた同窓会員の皆様へのお礼をかねまして、採択課題のご報告を申し上げます。

●学術研究の助成（1件）

伊藤 正樹（分化情報制御研究分野・助教授）
課題：高等植物の細胞周期を制御する転写因子の研究

●研究集会の助成（1件）

柴田 敏式（森林保護学研究分野・教授）
課題：日本林学会中部支部大会シンポジウム「森林との新しいつきあいを求めて—森林と心身のリハビリテーション—」の開催

●海外派遣の助成（2件）

関谷 信人（作物科学研究分野・D2）
課題：リン酸欠乏が誘発する気孔の閉鎖現象とそのメカニズムに関する研究の発表「第2回土壌—植物連続体におけるリンの動態に関する国際シンポジウム」オーストラリア

夏目 明香（家畜管理学研究分野・M2）

課題：ニホンカモシカにおける歯数異常及び歯周病に関する基礎的研究の発表「4th European Congress of Mammalogy 2003」チェコ

●その他（1件）

森 仁志（分化情報制御研究分野・教授）
課題：植物に学び植物を活かすバイオサイエンス次世代の食と環境を担う植物科学研究の最前線

同窓会寄付者リスト

本年度、農学部同窓会に対し以下の方々より寄付金を頂きました。ありがとうございました。

（敬称略）

八代 勝美	田口 令子	阿部 芳男
堀 麗彦	三嶋 隆	鈴木 智広
小林 良一	馬淵 圭	

人事異動（平成15年1月～12月まで）

日付	内容	官 職	氏 名	備 考
平成15年				
3月31日	退職	教 授	塚 越 規 弘	
3月31日	退職	教 授	牧 野 志 雄	
3月31日	退職	教 授	武 居 幸 子	
3月31日	退職	教 授	小 川 晃 男	
4月1日	命	総長補佐	坂 神 洋 次	
4月1日	併 任	評 議 員	小 林 迎 弘	
4月1日	併 任	応用生物科学科長	木 村 眞 人	
4月1日	昇 任	助 教 授	伊 藤 正 樹	東京大学大学院理学系研究科 助手より
4月1日	採 用	助 手	中 西 洋 一	
4月1日	併 任	センター長	山 木 昭 平	生物機能開発利用研究センター長
4月1日	昇 任	助 教 授	芦 刈 基 行	
4月1日	昇 任	助 教 授	依 田 欣 哉	
5月1日	採 用	助 教 授	佐 塚 隆 志	
6月1日	採 用	助 手	近 藤 竜 彦	
6月1日	併 任	文部科学事務官	魚 住 信 之	研究振興局学術調査官
6月16日	昇 任	教 授	服 部 束 穂	三重大学遺伝子実験施設 助教授より
6月16日	転 任	助 手	山 本 章 子	三重大学遺伝子実験施設 より
7月16日	昇 任	教 授	小 林 哲 夫	
8月1日	昇 任	教 授	吉 村 徹	京都大学化学研究所 助教授より
9月17日	命	総長補佐	竹 中 千 里	

事務局だより

セコイア会ホームページのご案内

セコイア会ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) では積極的に情報発信をしていきたいと考えております。現在も会報のバックナンバーなどを閲覧できますが、農学部近況など、流して欲しい情報がありましたら、是非ご意見をお寄せ下さい。どれだけ面白いホームページになるかは皆様のフィードバックにかかっています。また、卒業生間の同窓会の連絡や情報交換の場としてもどんどん活用して下さい。

平成14年度 事業報告

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成14年6月8日、名古屋大学農学部において総会を開催した。
総会終了後、池田 衡氏(丸石製薬中央研究所所長 1966年畜産卒)による講演「新薬開発における疾患モデル動物の役割」を開催した。
講演会終了後、名古屋大学グリーンサロン内「花の木」にて懇親会を開催した。
- 2) 卒業祝賀会の開催
平成15年3月25日に農学部談話室にて卒業祝賀会を開催した。樽酒を飲み交わしながら盛会のうちに終了した。
- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成15年3月に発行を行った。
- 4) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの大幅な更新と充実をはかった。
- 5) 同窓会名簿の管理
平成15年度の会員録発行に向け、名簿の充実と管理について改善に努めた。全学同窓会の名簿作成への協力と相互の情報交換を行った。
- 6) 全学同窓会への協力
農学部同窓会から全学同窓会設立委員会に委員を出し、その設立へ貢献した。発足後には全学同窓会幹事会に役員を出し運営に協力した。

平成15年度 事業計画案

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成15年6月7日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、浅野 峯男氏(前愛知県農業総合試験場長 昭和40年農学科卒)による講演「愛知県農業の発展のために ～地方試験研究機関の役割～」を開催する。
講演会終了後、名古屋大学シンポジオン内「ユニバーサルクラブ」にて懇親会を開催予定。
- 2) 卒業祝賀会の開催

平成16年3月25日に農学部談話室にて卒業祝賀会を開催する。

- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成16年3月発行を基本とする。
- 4) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかる。
- 5) 同窓会名簿の管理
会員情報の徹底調査と整理を行い、会員録を発行する。全学同窓会の名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努める。
- 6) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し運営に協力する。

退官技官

今年度は2名の技術部職員の方が退官されます。加藤靖彦さん、駒田利子さん。長い間お疲れ様でした。

名簿委員からのお知らせ

会員録発行のための調査にご協力を

新しい農学部同窓会会員録の発行を来年(平成17年)2月に予定しております。そのための住所録調査を行います。調査は会員録発行の契約を結んだ「株式会社サラト」(サラトのURL, <http://www.salat.co.jp/moku.htm>)が担当します。6月頃調査の用紙が郵送されますので登録内容を確認・訂正・変更をしたうえご返送くださるようお願い申し上げます。また、電話による問合せがある場合もありますのでその際のご協力もお願いします。

なお、個人情報保護法の施行にともない、会員録掲載の意思確認を併せて行います。会報の送付をはじめクラス会開催の連絡、同窓生間での連絡、後輩たちの就職活動など会員録の役割をご理解のうえご返答をお願いします。事務局では、皆様の登録情報についてその取り扱いに細心の注意を払っており、現在のところ会員の方であっても会員録以外の情報提供は一切行っておりません。

名古屋大学農学部同窓会 平成14年度決算

【収入の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会費等	¥ 6,798,000	永年会費	¥ 5,940,000	297名
		一役会費	¥ 765,000	163名
		寄付金	¥ 73,000	7名
		広告掲載費	¥ 15,000	1件
		会員録販売	¥ 5,000	1名
総会懇親会費	¥ 42,000			
普通預金利子	¥ 212			
前年度繰越金	¥ 12,863,406			
合計	¥ 19,703,618			未納分有、米年度へ

【支出の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会報発行費	¥ 1,197,171			増クイックス
アルバイト代	¥ 1,409,401	昨年支分	¥ 535,270	2名
		本年支分	¥ 868,141	1名
		臨時雇い分	¥ 6,990	1名
総会	¥ 307,060	講演料	¥ 30,000	1名
		総会支給交通費	¥ 30,000	2名
		役員報酬	¥ 144,000	12名
		懇親会	¥ 103,060	14名
後納郵便利用料	¥ 38,065			
郵便振替手数料	¥ 41,670			払込用紙等・トピス等300込
会報同窓会支授	¥ 12,460	郵送費		89通
入会払い戻し	¥ 20,140	永年会費		1件
セコイア通信名義送付	¥ 50,000			
卒業記念品	¥ 49,875	学位記用箋		学部1年卒業生へ
卒業祝賀会	¥ 125,927	挨拶・菓子		
事務諸費用	¥ 30,950	文房具・郵送費		昨年度分込み
合計	¥ 3,203,719			

【残高】

費用	金額	科目	金額	備考
残高合計	¥ 16,499,899			

名古屋大学農学部同窓会 平成15年度予算

【収入の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会費等	¥ 4,255,000	永年会費	¥ 4,000,000	290名
		一役会費	¥ 100,000	20名
		寄付金	¥ 100,000	10名
		広告掲載費	¥ 50,000	5件
		会員録販売	¥ 5,000	1名
総会懇親会費	¥ 60,000			60名
普通預金利子	¥ 200			
前年度繰越金	¥ 16,499,899			
合計	¥ 20,825,099			

【支出の部】

費用	金額	細目	金額	備考
会報発行費	¥ 2,000,000			
名簿管理費用	¥ 2,360,000	本人係認	¥ 1,630,000	
		内入力	¥ 670,000	
		ファイル変換	¥ 120,000	
アルバイト代	¥ 610,000	昨年度分	¥ 0	0名
		本年度分	¥ 600,000	1名
		臨時雇い分	¥ 10,000	1名
総会	¥ 324,000	講演料	¥ 30,000	1名
		総会支給交通費	¥ 30,000	2名
		役員報酬	¥ 144,000	12名
		懇親会	¥ 120,000	60名
後納郵便利用料	¥ 50,000			
郵便振替手数料	¥ 50,000			
卒業記念品	¥ 50,000			
卒業祝賀会	¥ 100,000			
事務諸費用	¥ 200,000	文房具・郵送費		
合計	¥ 5,744,000			

【残高】

費用	金額	科目	金額	備考
残高合計	¥ 15,071,099			

平成15年度役員名簿

名誉会長	山本 進一 (研究科長)	会計	前田 真一 (植物分子生理学研究分野)
会長	竹谷 裕之 (食糧生産管理学研究分野)		前尾健一郎 (生物化学研究分野)
副会長	鈴木 国男 (学外)	名簿	近藤 稔 (森林資源利用学研究分野)
関東支部長	朱宮 正剛 (学外)	ホームページ	吉村 崇 (動物行動神経学研究分野)
関西支部長	中井 昭彦 (学外)	会報	佐藤 豊 (植物遺伝育種学研究分野)
総務	松下 泰幸 (森林化学研究分野)	事務	宮田 久代 (動物生殖制御学研究分野)
	池田 素子 (資源昆虫学研究分野)		

◆ 関東支部幹事会開催 ◆

今大学は4月からの独立法人化により大変革を遂げようとしている。平成14年10月には全学同窓会が設立され、昨年3月には全学同窓会関東支部が発足し、12月には名古屋大学東京フォーラムが開催された。

これまで関東支部では主に同窓生の懇親の場として、ほぼ隔年に支部総会を開催してきた。支部総会企画を目的として昨年11月6日に幹事会を開催したが、同窓会の存続は必要として、これからの同窓会のあり方について、まず幹事レベルで十分話し合う必要があるとの合意に達し、本年1月27日に拡大幹事会を開催した。

独立法人化に向けた大学の取組み、同窓会に何が求められているか、同窓会は何ができ、何をすべきか、全学同窓会との関係は如何等について、山本進一研究科長と武田稜助教授においていただき、大学の教育研究方針、産学連携等についてお話しをうかがい、同窓会のあり方等について意見交換を行った。

日時：平成16年1月27日(水) 18:00~21:00

場所：神田学士会館 地下1階 名古屋大学東京連絡所

1. 大学の教育研究方針について

山本 進一 研究科長 (森林生態学)

2. 産学連携等について

武田 稜 産官学連携推進本部委員

(生命農学代表)

名古屋大学農学国際教育協力研究セ

ンター 助教授

3. 同窓会のあり方等について

農学部同窓会関西支部からのお知らせ

農学部同窓会では関西地区での同窓生のつながりをより緊密にするためにも農学部同窓会関西支部の存在は重要であり、今後さらにアクティブに活動して頂きたいと考えております。つきましては、現在支部長の中井昭彦氏と共に関西支部の活動を盛り上げて頂ける方を募集しています。同窓生ならどなたでも結構ですので我こそはとお思いの方は農学部同窓会までメール(dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) か手紙でお知らせください。

名大遠州会について

静岡文化芸術大学文化政策学部 (食工化D 昭和55年満了)

米屋 武文

名大全学同窓会が、平成14年10月に設立されましたが、名大遠州会はそのローカル組織と考えていただければよいでしょう。とはいっても設立は遠州会の方が先で、平成8年です。会員は、静岡県西部地域(遠州地方)に在住又は勤務する名古屋大学、大学院若しくはその前身校の出身者です。名簿上の会員総数は484名、うち農学部からは76名です。

毎年5月から6月に会員相互の親睦を目的とした同窓会と、隔年で行なわれる総会が主たる活動で、正副会長、各学部から若干名の幹事、会計監査員から成る役員会が企画運営を行なっています。昨年8月には、全学同窓会幹事会にて、名大遠州会を支部にするとの認定があり、全学同窓会との相互協力の体制が出来上がったところでした。

さて、会員全員が年に一度の顔合わせの機会である同窓会ですが、会場は浜松市内のホテルで行なわれます。会員又は名大関係者による講演と、その後の親睦会(パーティ)の2部構成で、親睦会ではアトラクションとしてバンド演奏や手品ショーなどを取り入れてきました。また、隔年開催の総会もこの同窓会の中で講演の前に行なっています。そして、これらの様子を報告するための会報も発行しています。

同窓会の出席者は、毎回とも100名にあと少しで届く位の人数で、私も参加する役員会では100名を当面の目標として計画を立てています。この地域にある世界的に元気な企業にまともな数で入っている工学部出身者と比べると、就職先が分散しがちな農学部出身者の参加が数でも率でも少なく、何とか本学部出身者の参加を増やすのが私に課せられた難題といったところです。このセコイア通信を読まれた遠州会会員の方の参加をこの場を借りてお願いする次第です。

バイオサイエンス分野のサポートで
奉仕する(株)カークです

取扱品

研究用試薬・工業薬品・体外診断用検査薬
理化学用分析機器・ディスプレイ製品 etc

カスタムメイドサービス

受託合成DNA・受託電子顕微鏡解析



Tel. 052-971-6533 Fax. 052-972-7295
Home page: <http://www.cahc.co.jp>
(旧社名:名古屋片山化学株式会社)

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具
主要取扱メーカー

久保田製作所	トミー精工
東京理化	タイテック
マリソル	日本エイド
佐久間製作所	岩城硝子
三洋メディカ	アトバンテック
三立科学	アト



株式会社 **みずほ理化**

〒468-0066 名古屋市天白区元八事1丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117

BIO の未来に夢と希望を!
機材 と 試薬 のご用命は理科研へ

RIKAKEN CO., LTD.

理科研株式会社

本社/名古屋市守山区元郷二丁目107番地
〒463-8528 TEL(052)798-6151 FAX(052)798-6157
支店・営業所/東京・つくば・柏・神奈川・鶴見・静岡・岐阜・津・四日市

<http://www.rikaken.co.jp>

理化学器械・光学器械・分析器械・ガラス器具一般

特約代理店

○ オリンパス光学 ・ 三洋電機(株)
ヤマト科学(株) ・ 東亜電機(株)
(株)佐久間 ・ (株)岩城硝子

合資会社 **木下理化**

〒466-0035
名古屋昭和区松風町1丁目32番の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約6000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同期会の通知などにご利用下さい。

なお、費用は1ワク1万5千円です。
詳しくは、同窓会事務局まで。

コミュニケーションの進化に対応する



印刷を核に情報産業を担う企業として、
新時代のコミュニケーションの輪を
拡げています。

■本社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200
■名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410